

市のあゆみ

◆沿革

本市は、四方を険しい山々に囲まれた、会津盆地の東南に位置する旧会津松平家の城下町である。自然景観に恵まれた山紫水明の地であり、その地理的特性もさることながら、歴史的にも古く、名所旧跡も数多い。古文書や伝承によれば、古くから独自の文化圏を形成していたことも推察され、今後の、専門家による本格的な調査・研究が強く望まれているところである。

昭和 39 年、市内一箕町にある大塚山古墳の発掘調査が行われ、その結果、形状は、「柄鏡式前方後円墳」で 4 世紀後半に造営されたものという調査報告がなされている。勿論それ以前の縄文期の土器なども数多く出土しているが、この調査により、当時既に国家的形態を伴う有力な部族の長が存在したことや相応の経済的基盤も確立していたことが明らかにされた。また、その出土品の中に「沓形三角縁神獣鏡」が含まれ、その鏡が主に岡山県地方に多く出土するものと全く同じ鋳型で作られていることから、大和朝廷を中心とする畿内勢力とも何らかの交渉があったことも判明している。

「会津」の地名の起こりは、崇神天皇の頃の四道将軍派遣に由来するといわれている。諸説あるものの、記紀の伝承によれば、四道将軍のうち、大彦命は北陸方面へ、そしてその子の武渟川別命は東山道方面の経営に遣わされたとあり、その親子が出逢った所が「相津」とされ、後に「会津」となったといわれている。ちなみに「津」とは、湖や沼地の多い所、河川の合流点という意味がある。当時の会津は、畿内からみれば辺境の地であり、中央の文献に記述が少ないとしても当然のことといえよう。

また、当地が「仏都会津」と称されていることも特筆すべきであろう。9 世紀の初め、高僧徳一が会津入りして大寺（現磐梯町）に慧日寺を建立し、空海や最澄と激烈な法論を展開したことは有名な史実である。更に、地元の古文書には大和政権が仏教を国教として認知する前に、既に会津の地にも仏寺が建立されていたという記録も残されているほどである。

◆武家支配と鶴ヶ城

会津の中世から近代に至る歴史は、その位置づけにおいて特異なものがある。即ち、いわゆる中央と地方（奥州）との政治勢力のきつ抗する一大拠点として、時流に翻ろうされ、その盛衰の様は文字どおり一大叙事詩とさえいえるべきものがある。従って、鶴ヶ城の軌跡をたどることによりおのずと会津の歴史も浮き彫りになってくる。

まず、武士団による会津支配は輩名氏に始まる。

輩名氏は、源頼朝による鎌倉幕府開設に功あったとされる三浦一族の末えいであるが、直盛の代に小高木館を築いたのが築城の始まりである。その後、黒川城を経て近代的な築城に本格的に着手したのは、1589 年輩名氏が伊達政宗に滅ぼされ一年余の伊達支配の後に、伊勢松阪から会津入りした蒲生氏郷である。

氏郷の会津入りは豊臣秀吉の命で、奥州仕置後の伊達氏牽制が目的であったとされている。氏郷は従来の黒川城を大改修することにより軍事的拠点の強化を図り、更に当地を出生の地にちなんで「若松」と改名し、後世に残る城下町の再編・整備を行ったとされている。黒川城を新たに「鶴ヶ城」と命名したのもこのときのことであるが平山城の七層の天守閣は会津の地にその威容を鼓舞するに十分であった。

その後、上杉景勝の所領となったが、重臣直江兼続が石田三成と結び徳川家康に対抗しようとしたことから領地替えとなり、再び蒲生氏郷の子秀行の居城となった。

1627 年に「賤ヶ岳七本槍」で有名な加藤嘉明が伊予松山から会津に入り、その子の明成が大地震で傾いた天守閣を五層にし、現在の城割を行うなどしたが、重臣との間に不祥事があり、保科正之が新たに会津入りすることとなった。

保科正之は、二代将軍秀忠の第四子、三代将軍家光の異母弟である。以後、三代正容の代に将軍の命により松平姓と葵の紋を用いることが許されることになる。藩祖正之は、稀にみる学才の徒であり四代将軍家綱の補佐役として非凡な才能を駆使したばかりでなく、藩政面でもその卓越した指導力を十分に発揮している。正之自身は政務のため江戸滞在が多かったが、歴代藩主が内紛で自滅したケースが多いことを考えると実に対照的である。

藩祖正之の、徳川家に対する絶対的な忠誠心と儒学あるいは神道を基礎とする学風は、やがて藩校日新館に受け継がれ、九代容保の代に会津を焦土と化す大戦乱に遭遇するに至って、会津における武家支配は完全に終えんをみるのである。ちなみに、戊辰戦争の敗戦により鶴ヶ城が取壊しとなったのは、明治新政府に対する不平士族の武装ほう起が相次ぐ 1874 年(明治 7 年)のことであった。

◆会津若松市の誕生

本市が県内初の市制を施行したのは明治 32 年 4 月 1 日のことである。戊辰戦争の極度の混乱と荒廃の中で、また会津藩が下北半島の斗南藩に移封され、

筆舌に尽くしがたい辛酸の後に得た貴重な代償であった。市制・町村制の法律施行以来、10年後のことである。

明治期における全国的な反政府的気運は本市も例外たることを許さず、自由民権運動家による啓もうと弾圧の歴史は市内の「清水屋事件」などに象徴されるように事例も数多い。いわば近代国家へ脱皮するための過渡期でもあったわけである。昭和30年1月1日、近隣7カ村と合併し、市名も若松市から「会津若松市」と改め、名実ともに会津の中核都市として生まれ変わった。

それから、約半世紀、平成の大合併の機運が高まる中で、本県においても新たな自治体再編の動きが出てきており、県内で初めて平成16年11月1日に北会津村を編入合併した。さらに、平成17年11月1日には河東町を編入合併したところである。

◆将来に向けて

本市は、明治32年に福島県内で最初に市制が施行され、平成11年4月に市制施行百周年を迎えた。この記念すべき節目に向け、平成8年10月には市制百周年記念事業実行委員会により百周年記念事業基本構想と基本計画が策定され、シンポルイベント事業、地域イベント事業、記念式典事業等各種事業を展開したところである。

また、昭和61年10月の会津鬼怒川線、62年7月の第三セクターによる会津線の開通をはじめ、平成5年3月には福島空港が開港し、さらに平成9年10月には太平洋側（いわき市）と日本海側（新潟市）を結ぶ磐越自動車道が全線開通し、首都圏との時間的距離の短縮と東西方向との結びつきの強化が期待されている。

教育面では、平成5年4月にコンピュータ理工学部を持つ4年制の会津大学が開学し、また、平成9年4月には大学院も設置され、産学官の研究・開発協力や新時代に対応できる情報技術の再教育など大きな期待が寄せられている。

平成11年9月には、本市の将来に向けて、自治体としての確固たる基盤づくりと新たな飛躍を遂げるための道筋として「現在の財政状況」、「行政のスリム化の考え方」、「73項目の施策の再点検にかかる現状と今後の考え方」について報告されるとともに、今後のまちづくりについて一定の方向性が示されたところである。

近年、市税及び地方交付税の大幅な落ち込みや地方分権の進展により、かつてない危機的な財政状況に直面し、平成15年8月「行財政再建プログラム」を公表し、平成18年度までの3カ年を再建期間と位置

づけ、人件費の削減や内部管理経費の縮減など、さまざまな行財政改革に取り組んできたところである。今後も、限られた財源のなかで、効率的な行政運営を図ることが求められている。

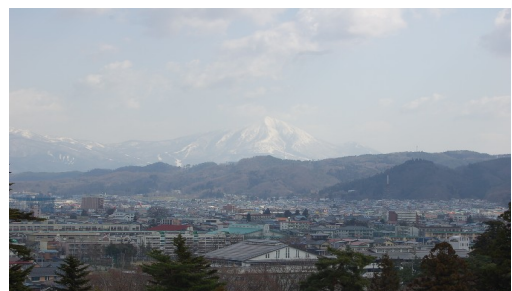
平成23年3月11日には三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震により当市は震度5強を観測。この震災による東京電力福島第1原子力発電所の事故のため双葉郡大熊町役場機能が追手町第2庁舎（旧県立会津学鳳高校）へ移転、多くの大熊町民が本市にて避難生活を送った。令和元年5月には大熊町に役場新庁舎が完成し業務を再開したところである。

本市は震災そのものによる被害は比較的軽微であったものの、放射線による健康への懸念や風評被害による観光・農業等の基幹産業に大きな影響を受け、これらを払拭するための取り組みが進められてきた。

そのような中、平成25年にはNHK大河ドラマ「八重の桜」の放送により、多くの観光客が本市を訪れ、平成27年には鶴ヶ城天守閣再建50周年を迎えた。

また、平成28年6月に施行した「会津若松市自治基本条例」に基づき、市政の総合的かつ計画的な運営を図るための中長期的な計画の基本理念、政策、施策等を体系的に示した、平成29年度を初年度とする「会津若松市第7次総合計画」を策定し、“ともに歩み、ともに創る「温故創しん」会津若松”を基本構想として、スマートシティ会津若松、しごとづくり、公共施設、行政サービスの適正化に視点を置きながら、「誰もがお互いを尊重し合い、自分らしく、幸せな暮らしを営むことができる、強く、やさしいまち」、「個性と魅力をもち、連綿と続く活力あるまち」会津若松に向けて取り組んでいるところである。

さらには、スマートシティ会津若松の一環として取り組んできたICTオフィス環境整備事業において、平成31年4月に「スマートシティA i C T（アイクト）」が開所したところであり、ICT関連企業の誘致及び誘致企業と会津大学や地元企業との技術交流を図り、新たな設備投資や産業創出に向け取り組んでいるところである。



市勢

市の位置

本市は、福島県の西部会津盆地の東南にあり、東京から約 300km、県都福島市から約 100km の距離にある。東は猪苗代湖を境とし、南は布引山・大戸岳を境とした諸山岳が壁をなし、西は会津平坦部を縦断する宮川を境とし、北は日橋川を境としている。（市役所庁舎は、おおむね東経 139 度 55 分 47 秒、北緯 37 度 29 分 41 秒に位置）

面積・地形・地質

本市の市域面積は 382.99km²であり、また、地形は、東西に 20.5km、南北に 28.9km、海拔は 218.32m であり、東西に短く、南北に長い地形になっている。

市域のうち山林面積が約45%を占め、地域の北西にある市街地は、中心を湯川が流れ、東から西へ緩やかな傾斜をなしている。地質は、主に石英安山岩で、沖積層からなっている。

気 候

気候は、内陸盆地特有の複雑な様相を示し、冬期は日本海側の気候となり好天が少なく降雪量が多く、夏期は太平洋側に近い気候を示すものの、春秋にはこれに内陸型の気候条件が加わり、日中と夜間の気温差が激しくなっている。

平年の日最高気温（８月）は30.8℃、日最低気温（２月）は-3.5℃で、年間降水量は1,253.0mm、年間日照時間は1,631.6時間、年間降雪量は328cmとなっている。

市域の変遷

◆合併の経過

- 明治32年4月1日（若松市制施行）
 - ・ 面積 5.75km²
 - ・ 人口 30,488人
- 昭和12年4月1日（北会津郡町北村の一部を合併）
 - ・ 合併後の面積 6.42km²
 - ・ 合併後の人口 48,234人
- 昭和26年4月1日（北会津郡町北村を合併）
 - ・ 合併後の面積 11.82km²
 - ・ 合併後の人口 62,509人
- 昭和30年1月1日（北会津郡高野村、東山村、門田村、神指村、一箕村、大戸村、湊村を合併）
 - ・ 合併後の面積 284.81km²
 - ・ 合併後の人口 95,979人
- 昭和30年4月1日（大沼郡本郷町小谷集落を合併）
 - ・ 合併後の面積 286.26km²
 - ・ 合併後の人口 96,146人

※ 平成2年度の国勢調査に基づく総務庁統計局
による推定面積として286.38km²となる。

- 平成12年2月1日(猪苗代湖の境界が確定したことに伴う市域面積の増)
 - ・ 境界確定後の面積 315.28km²
- 平成16年11月1日(北会津郡北会津村を合併)
 - ・ 合併後の面積 343.46km²
 - ・ 合併後の人口 123,718人
- 平成17年11月1日(河沼郡河東町を合併)
 - ・ 合併後の面積 383.03km²
 - ・ 合併後の人口 131,329人
- 平成27年1月1日面積 382.99km²(測量方法変更による)



土地・面積

◆地目別土地面積

(各年1月1日現在 単位：km² ただし鉱泉地はm²)

区分	令和8年	令和7年	令和6年
総面積	382.99	382.99	382.99
田	57.84	58.01	58.34
畑	13.97	13.90	13.69
宅地	22.81	22.79	22.80
鉱泉地	(126)	(164)	(126)
池沼	29.17	29.17	29.17
山林	169.86	169.85	169.87
原野	8.26	8.22	8.23
雑種地	ゴルフ場用地	0.86	0.86
	鉄道用地	0.68	0.68
	その他	22.44	22.42
	小計	23.98	23.96
その他	57.10	57.09	57.20

人口・世帯数

◆人口及び世帯数

(各年10月1日現在)

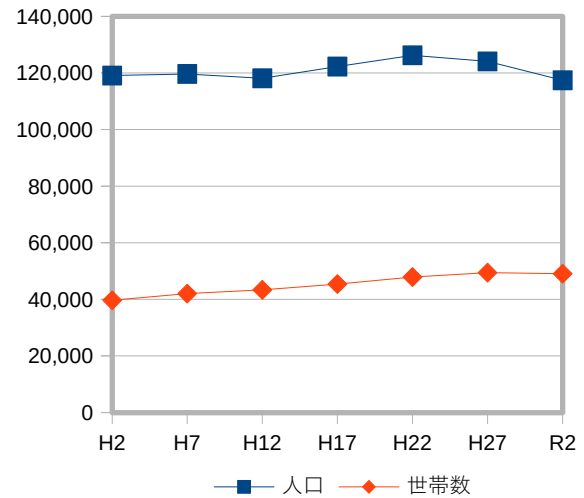
年	世帯数 (世帯)	人口(人)		
		男	女	計
T 9	6,977	22,587	22,905	45,492
S 30	18,943	47,003	50,882	97,885
S 50	31,402	50,882	57,768	108,650
S 60	38,078	55,827	62,313	118,140
H 2	39,661	56,423	62,657	119,080
H 7	41,995	57,101	62,539	119,640
H 12	43,347	56,516	61,602	118,118
H 17	45,391	58,067	64,181	122,248
H 22	47,891	59,854	66,366	126,220
H 27	49,431	59,200	64,862	124,062
R 2	49,022	56,063	61,313	117,376

<参 考>会津若松市+北会津村+河東町

H 7	46,126	65,606	71,459	137,065
H 12	47,638	64,897	70,518	135,415
H 17	47,905	62,443	68,946	131,389

※各年、国勢調査による数値

● 人口及び世帯数の推移



※国勢調査による数値(各年10月1日現在)

◆人口動態

● 社会動態

(単位：人)

区分		令和7年	令和6年	令和5年
転入	男	1,754	1,826	1,848
	女	1,355	1,514	1,448
	計	3,109	3,340	3,296
転出	男	2,023	2,023	2,092
	女	1,661	1,736	1,830
	計	3,684	3,759	3,922
社会増減	男	▲269	▲197	▲244
	女	▲306	▲222	▲382
	計	▲575	▲419	▲626

※現住人口調査による数値(各年1月～12月累計)

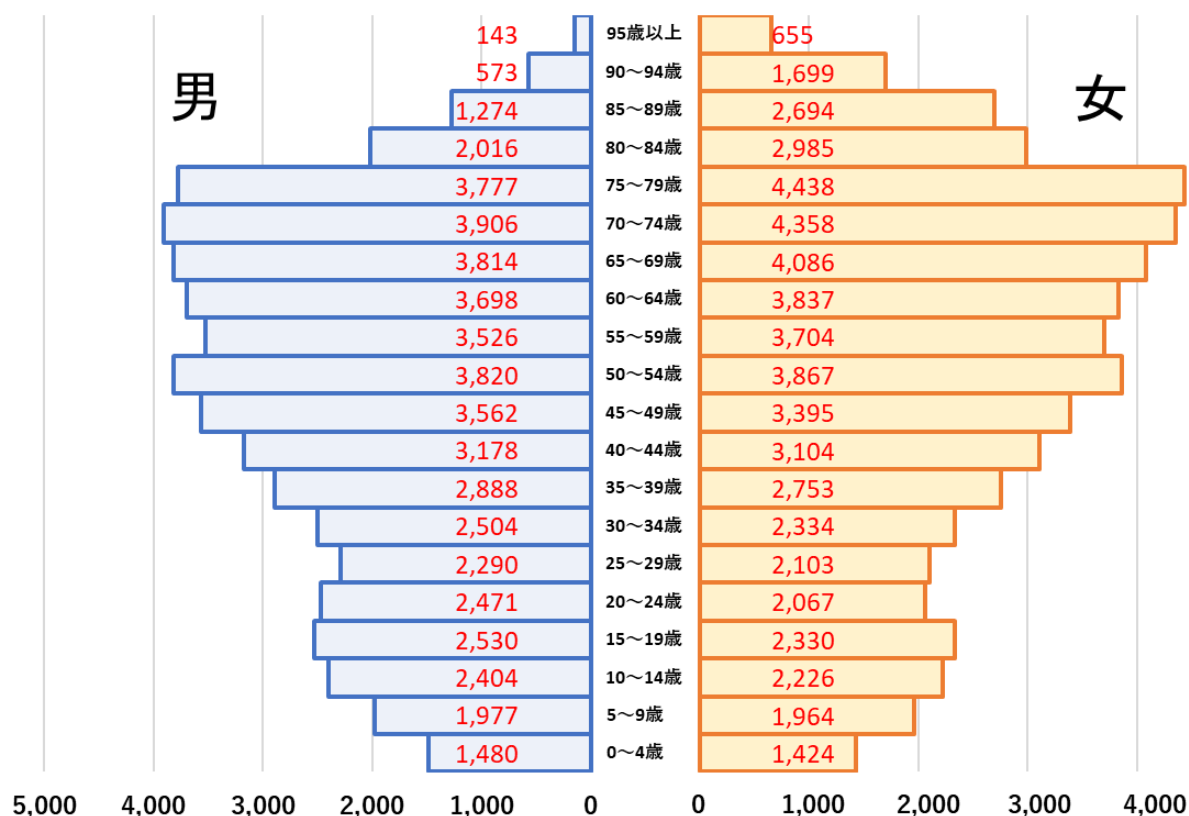
● 自然動態

(単位：人)

区分		令和7年	令和6年	令和5年
出生	男	236	288	335
	女	267	262	268
	計	503	550	603
死亡	男	871	851	827
	女	897	870	918
	計	1,768	1,721	1,745
自然増減	男	▲635	▲563	▲492
	女	▲630	▲608	▲650
	計	▲1,265	▲1,171	▲1,142

※現住人口調査による数値(各年1月～12月累計)

●年齢・男女別人口 令和8年4月1日 住民基本台帳による数値 107,854 人 (男 51,831 人 女 56,023 人)



◆ 産業（大分類）別就業人口（15歳以上就業者）

令和2年10月1日現在

		男	女	総数	構成比（%）
総 数		29,817	25,925	55,742	100.0
第一次	A 農業・林業	1,479	1,025	2,504	4.7
	B 漁業	2	1	3	0.0
	小 計	1,481	1,026	2,507	4.7
第二次	C 鉱業・採石業・砂利採取業	12	3	15	0.0
	D 建設業	3,660	726	4,386	8.2
	E 製造業	5,935	3,401	9,336	17.5
	小 計	9,607	4,130	13,737	25.8
第三次	F 電気・ガス・熱供給・水道業	459	63	522	1.0
	G 情報通信業	375	135	510	1.0
	H 運輸業・郵便業	1,641	296	1,937	3.6
	I 卸売・小売業	4,166	4,443	8,609	16.1
	J 金融・保険業	453	639	1,092	2.0
	K 不動産業・物品賃貸業	368	322	690	1.3
	L 学術研究、専門・技術サービス業	810	468	1,278	2.4
	M 宿泊業・飲食サービス業	1,334	2,314	3,648	6.8
	N 生活関連サービス業・娯楽業	697	1,178	1,875	3.5
	O 教育・学習支援業	1,318	1,648	2,966	5.6
	P 医療・福祉	2,126	6,028	8,154	15.3
	Q 複合サービス事業	346	212	558	1.0
	R サービス業（他に分類されないもの）	2,081	1,269	3,350	6.3
	S 公務（他に分類されないもの）	1,286	614	1,900	3.6
	小 計	17,460	19,629	37,089	69.5
T 分類不能の産業		1,269	1,140	2,409	-

※令和2年国勢調査による数値

※構成比は分類不能を除いて算出

年 表

西暦	元号	月日	で き ご と
1889	明治 22	4. 1	若松町制施行(町村制施行により 83 町が合併し福島県北会津郡若松町となる)
1890	23	2.	当主である松平容大により、鶴ヶ城が陸軍省から払い下げられる (当時の価格で 2,000 円)
		4. 3	私立会津中学校開校(翌年県知事管理に移管、会津尋常中学校と改称。明治 34 年 県立移管、福島県立会津中学校と改称)
1893	26	7. 1	第 1 回衆議院議員総選挙
		4. 4	私立若松幼稚園、甲賀町に開園
		4.	私立会津女学校、甲賀町に開校(福島県女子中等教育の最初)
1898	31	12.	会津漆器徒弟学校、馬場上四之町に開校
1899	32	4. 1	若松市制施行(福島県で最初の市となる。この年の人口 3 万 488 人)
		6. 4	初の市会議員 3 級選挙(6 月 5 日 2 級、6 月 6 日 1 級選挙。各級定数 10 人、任期 6 年、3 年ごと半数改選)
		6. 16	初の市会開会。初代議長に林賢藏当選
		7. 15	岩越鉄道山潟ー若松間開通。郡山ー若松間全通
		7. 26	秋山清八、初代若松市長に就任
1902	35	1. 1	会津電力株式会社開業。市内に点灯
		5. 1	豎三日町から出火し 360 余戸焼失
		9. 28	市内に大暴風雨。湯川増水し、新横町、川原町、材木町等床上浸水(死者 102 人、 全壊 758 戸など明治になり最大の被害)
1904	37	1. 20	岩越鉄道、若松ー喜多方間開通
		2. 11	若松市立会津図書館開館
		4. 15	福島県立工業学校開校(若松市立会津漆器徒弟学校廃止)
1905	38	5. 18	若松市立女子芸技学校開校(私立会津女学校廃止。明治 44 年廃止)
		6. 12	馬場上二之町から出火し 120 戸焼失
		8. 15	初の音楽会「第 1 回夏期恤兵音楽演奏会」開催
1906	39	5. 2	上大和町から出火し 207 戸焼失
		11. 1	岩越鉄道、国有となる
1908	41	6. 26	歩兵第六五連隊連隊入営
		12. 1	初の電話開通(207 件加入)
1909	42	5. 1	県立会津高等女学校開校
1911	44	7. 14	市内に豪雨。川原町、南町、融通寺町方面浸水。湯川筋 6 カ所決壊
1912	45	5. 25	若松市立若松商業学校開校
1913	大正 2	8. 27	市内に豪雨。烏橋等流失
		10. 31	市内初のピアホール、甲賀町に開店
1914	3	4.	七日町の白木屋漆器店が洋風に改築
		11. 1	岩越鉄道喜多方ー新津間開通(郡山ー新津間開通)
1915	4	8.	大典記念で高齢者に交付される木杯 27 万個が市内の漆器業者に注文される
1916	5	12. 25	若松市と松平保男子爵は、旧城跡 23 町 8 畝 11 歩を価格 3 万円(10 年賦)で売買 する契約を締結
1917	6	4. 20	第 13 回総選挙で白井新太郎と柴四郎が 1 票差。殿閣下をつけた柴票の無効取り扱 いをめぐり混乱(翌年、大審院が選挙無効の判決)
		4. 21	若松駅を会津若松駅と改称(鉄道院において福岡県遠賀郡若松駅と同字同音による 荷物取り扱い上錯誤が多いため、福島県知事に駅名改称を交渉)
		10. 10	平郡線郡山ー平間が開通し、平ー新津間全通となり磐越線と総称する (郡山より西を磐越西線、東を磐越東線とする)

西暦	元号	月日	できごと
1918	大正 7	8. 15	市民が旧城跡に集合、市内で騒擾。若松警察署は、集団での夜間外出を禁止
		～17	歩兵第六五連隊を出動させ警戒（米騒動）
1920	9	8. 16	厨子入葦名盛氏像、国宝に指定される
		10. 1	第1回国勢調査
1921	10	10. 9	物産陳列館落成（付設公会堂落成）
1922	11	6. 20	市会は、議長選挙をめぐり混乱。傍聴席喧騒のため、警官に傍聴人の退場の措置を要求。多数の傍聴人で混雑し傍聴席が墜落。1人死亡
1923	12	5. 23	市制施行 25 周年記念祝賀会、公会堂で举行（柴四朗、日下義雄、秋山清八ら功労者を表彰し掲額する）
		9. 5	松江豊壽市長、関東大震災による市出身者在京者救護のため上京。歩兵第六五連隊も震災地警備のため特別列車で上京
1925	14	5. 9	歩兵第二九連隊入営（歩兵第六五連隊廃止）
		12. 17	若松市営火葬場が栄町字鶴ヶ城に開業
1927	昭和 2	4. 24	市会は市徽章制定の件を修正可決
		11. 1	会津線西若松－上三寄間開通
1928	3	3. 30	大典記念のため高齢者に交付される養老杯 32 万個が、会津漆器同業組合に注文される
		9. 6	都市計画区域に指定される（翌年に区域決定）
		9. 28	秩父宮と松平勢津子結婚
		12. 1	イタリア・ムッソリーニ首相より寄贈された白虎隊記念碑の除幕式举行
1929	4	4. 1	水道給水開始
		9. 1	若松市立若松商業学校が県立に移管。福島県立若松商業学校と改称
1930	5	5. 6	一箕村に会津競馬場が開設
		6. 4	普通選挙による市会議員選挙（等級選挙廃止、定数 30 人）
1932	7	10. 19	会津松平氏庭園（御薬園）が国の名勝に指定される
1934	9	3. 5	若松－東京間の直通電話開通
		12. 27	会津線会津若松－田島間が全通
		12. 28	若松城跡が国の史跡に指定される
1937	12	4. 1	若松市と町北村の藤室、上荒久田、石堂が合併
		7. 31	新市庁舎落成
		9. 18	歩兵第六五連隊再編。上海に出発
1938	13	8. 31	ヒットラー＝ユーゲント（独交歓青年使節団）一行 31 名来若。飯盛山白虎隊墳墓に参拝
1940	15	7. 11	若松商工会議所が認可される（初代会頭高瀬喜左衛門）
		10. 26	鈴木寅彦市長、県下に先駆けて鉄くずの回収運動を提案
1941	16	11. 4	株式会社社会津銀行は、白河瀬谷銀行、郡山商業銀行と合併。東邦銀行会津支店となる
1942	17	3. 31	物産陳列館廃止
		5. 30	NHK若松ラジオ放送局が徒ノ町に開局
1943	18	2. 4	歩兵二九連隊、ガダルカナル島を撤退（連隊長以下 2, 200 人戦死）
		4. 1	福島県立会津第二工業学校開校
		10. 1	若松市国民健康保険組合設立
1945	20	9. 24	米軍第二七師団の将校、兵士が来若。公会堂は進駐軍に接收。約 2, 000 人が連隊営舎に入る
1946	21	3. 31	会津図書館の元会津物産館跡への移転・改修工事が竣工（4 月移転完了）
		4. 10	第 22 回衆議院議員総選挙（初の婦人参政権）
		11. 3	神明通り開通式举行
		12. 5	5 つの小学校でミルク給食始まる（謹教、鶴城、行仁、城北、城西）

西暦	元号	月日	で き ご と
1947	昭和 22	2. 10	社団法人会津若松商工会議所設立認可
		4. 1	新学制による小学校、中学校発足（第一～第四中学校は、高等女学校等の校舎を借用し開校）
		4. 5	第 1 回若松市長選挙（4.15 小日山武夫が決戦投票により当選。引き続き第 1 回福島県知事選挙、第 1 回参議院議員選挙、第 1 回県議会議員選挙が行われる）
		8.18	天皇陛下巡幸
1948	23	3. 7	若松市警察署（市署）と国家地方警察若松地区警察署（地区署）設置。若松市自治体消防発足
		9.25	若松市 P T A 連合会が発足
		12.	第 1 回市民結婚式、議場で挙行
1949	24	5.21	若松市市制施行 50 周年記念式典、公会堂で開催
1950	25	1.15	初の成人式
		4. 8	第 1 回県営会津競輪開催（東北初、史跡若松城跡に建設）
		9.	総合グラウンド陸上競技場完成
1951	26	4. 1	町北村を合併
		4. 1	会津短期大学開校（県立若松商業高等学校に併設）
		4.	第三中学校、第四中学校新校舎完成
		4.20	市政だより創刊（タブロイド判 2 頁）
		5.12	市営総合グラウンドのテニスコート、会津球場（5 月）、市営プール（7 月）が完成
		5.19	市議会是最初の一般質問を行う（会議日程にのった最初の質問）
1952	27	10. 5	初の市教育委員会委員選挙（11. 1 発足）
		10.19	第 7 回国民体育大会開催（柔道と軟式庭球。会津高等学校がボート優勝）
1953	28	4. 1	日新小学校創立
		7.15	若松測候所が材木町に完成（ 8. 1 業務開始）
		10. 3	若松市最初の統一祭「会津まつり」開催
1954	29	3.21	謹教小学校火災により焼失
		5.23	若松ラジオ商工組合、テレビの受信テストに成功（公会堂前でナイターを一般に公開）
		7. 1	若松市署廃止。福島県若松警察署発足
		10. 6	公益質屋開業
		10.	謹教小学校校舎完成（復旧）
1955	30	1. 1	北会津郡湊村、一箕村、高野村、神指村、門田村、大戸村、東山村の 7 村を編入合併。会津若松市と改称（人口が約 3 万 3 千人増え、9 万 8 千人となる）
		4. 1	大沼郡本郷町大字小谷を編入合併
		4.28	一箕小学校・中学校、西側校舎のみ残し校舎全焼
1956	31	5.18	一箕小学校・中学校校舎落成式挙行
		8.10	背炙り山空中ケーブル完成（片道 70 円、往復 130 円）
1957	32	4.16	神明通りにアーケード完成
		9.22	戊辰戦役 90 年祭挙行
1958	33	3.21	会津競輪、小田垣に移転、再開
		4. 1	市は、全市域に国民健康保険事業を開始
		4. 1	若松第二中学校、東山中学校を統合
		5. 6	市役所の増築工事完成
1959	34	3. 5	会津若松観光協会設立
		3.	城西小学校完成
		4. 1	県立会津高等学校、第 31 回選抜高校野球大会に出場（尼崎高校に惜敗）
		12.20	市民会館落成。市制施行 60 周年記念式典開催

西暦	元号	月日	できごと
1960	昭和 35	10. 29	東北開発株式会社会津ハードボード工場落成
		12.	「図説会津若松の歴史」刊行
1961	36	1. 1	若松ガス株式会社、ガス供給を開始
		3.	会津若松駅、全面改装（旧駅舎取り壊し）
		9. 1	会津若松市の人口が 10 万人を突破（郡山市、福島市に次いで県内 3 番目）
		9. 6	天皇皇后両陛下、赤井谷地を見学
		9.14	第 16 回国民体育大会水泳競技、市営プールで開催
		10.27	大善デパート、神明通りに開店。12.1 ライオン堂開店
1962	37	3.20	城北小学校に鉄筋 3 階建の新校舎が落成
		8.10	市営自動車学校、神指町に落成
		9.22	背炙り山、第 2 ケーブル開通
1963	38	7. 5	若松デパート、神明通りに開店
		7.27	会津総合開発協議会設立
		10.31	衛生プラント（し尿処理場）、神指町に完成
		11.11	県営会津競輪廃止
		11.12	市営食肉センター、神指町に完成
1964	39	1.31	新火葬場、門田町黒岩に完成
		5.15	大塚山古墳発掘。木棺、鉄剣、銅鏡等を発掘
		6.16	新潟地震発生。会津若松は震度 4
		11. 5	滝沢浄水場、1 号急速ろ過施設の完成
1965	40	2. 1	最初の住居表示が実施される（市役所の住所が東栄町 3 番 46 号となる）
		3.15	市議会は、最初の代表質問を行う
		4.	漆器工業団地（門田町一ノ堰）の移転業者の操業が始まる
		7.15	会津若松市外三町四ヶ村衛生組合設立（し尿消化そうを設置し維持運営を共同処理）
		9.17	若松城天守閣落成
1966	41	4.15	国民宿舎「あいづ荘」、大戸町小谷に開業
		6.20	じん芥処理場、神指町に完成。業務開始
1967	42	4. 1	会津地方市町村電子計算機管理運営協議会発足
		8. 3	市の花「あおい」制定
		9.22	明治戊辰百年記念式典、市民会館で挙（秩父宮妃臨席）
		11. 9	富士通会津工場開設
		11.	「会津若松史」全 13 巻完成
1968	昭和 43	5. 3	会津若松市民憲章制定
		5.18	行仁小学校舎完成
		7. 1	郵便番号制度実施。本市は 965
		10. 1	会津若松ー上野間の特急「あいづ」運行（3 時間 35 分で結ぶ）
1969	44	3.24	市議会は、会津若松市じん芥処理場建設調査特別委員会（百条委員会）を設置（12.19 調査報告承認）
		7. 7	会津図書館、城東町に移転
		8.22	市制施行 70 周年記念式典、市民会館で挙
1970	45	3.16	旧滝沢本陣、国の史跡に指定される
		6. 1	公益質屋廃止
		10.15	新都市計画法による市街化区域と市街化調整区域の線引きが実施される
1971	46	1. 1	会津地区広域事業組合設立（会津若松市外三町四ヶ村衛生組合名称変更）
		2.27	「60 年をめざす街づくり計画」策定
		3.11	旧滝沢本陣横山家住宅主屋、座敷が国の重要文化財に指定される

西暦	元号	月日	で き ご と
1971	昭和 46	10. 25	国道 49 号線いわきー郡山ー新潟間全線開通。総延長 242.3km
		11. 15	背炙り山開発道路全線開通
1972	47	4. 1	会津若松地方広域市町村圏整備組合発足
		4. 1	会津若松駅前地下歩道完成
		5. 26	大塚山古墳が国の史跡に指定される
		11. 4	国道 121 号バイパス富士通前通り約 900 m完成
1973	48	3. 18	県営会津体育館、城東町に落成
		9. 18	初の全市一斉川ざらい実施
		11. 15	門田小学校新校舎落成
1974	49	1. 11	国道 49 号線町北バイパス 2.2km完成
		5. 15	市議会事務局は、「あいづわかまつ市議会だより」を創刊（昭和 51 年 5 月 1 日号から「広報議会」に名称変更）
		7. 27	会津若松警察署、山見町に新築移転
		11. 18	会津若松地方水道用水供給企業団発足
1975	50	4. 26	会津武家屋敷開業
		6. 10	会津若松市勤労青少年ホーム開館
		6. 30	市営自動車学校廃止
		8. 26	東山小学校、新校舎で授業を開始
		9. 30	会津若松市公設地方卸売市場開場式挙（10.6 業務開始）
		12. 26	高瀬市長、職員の給与改定 7 月実施の修正を受け、再議書を一ノ瀬議長に提出（市議会は、6 月実施に再修正）
1976	51	10.	一箕中学校校舎新築移転
1977	52	9. 15	会津若松地方広域市町村圏整備組合の新庁舎が一箕町上蚕養に落成
		11.	第六中学校校舎新築移転
1978	53	4. 1	神指中学校と永和中学校が統合。第六中学校が神指町に開校
		7. 14	中央通り開通式挙
		9. 1	県企業局が造成した門田町一ノ堰工業団地の分譲が始まる（昭和 59 年 11 月完売）
		11. 16	都市計画街路亀賀御山線 A 工区完成。富士通通りと連結
		11. 22	文化福祉センター開館
1979	昭和 54	6. 13	夜間急病センター業務開始
		9. 22	市制施行 80 周年記念式典、市民会館で挙。市の木「アカマツ」を制定
1980	55	4. 21	特別養護老人ホーム「芦ノ牧ホーム」開所
		4. 21	北公民館開館
		10. 20	都市計画街路八幡鍛冶屋敷線完成。国道 49 号と飯盛山、東山温泉が直結
1981	56	5. 2	南公民館開館
		7. 28	神指小学校、鉄筋コンクリート 3 階建の新校舎が完成
		10. 27	会津若松市シルバー人材センター発足
		12. 11	都市計画街路亀賀御山線 C 工区完成（小田橋から県道黒岩柳原線まで）
1982	57	4. 1	会津若松市中央保育所開所
		4. 6	国土庁、伝統産業都市モデル地区整備事業の対象都市に会津若松市を指定
		7. 1	会津若松市下水浄化工場通水記念式挙
		7. 1	ニチイ会津若松ショッピングデパート、会津若松駅前に開業
		10. 19	東山ダム竣工
		10. 30	東山新浄水場完成
		11. 26	小田橋架け替え工事完成。開通渡橋式挙
		12. 27	行仁コミュニティセンター開所

西暦	元号	月日	で き ご と
1983	昭和 58	6. 1	厚生省、障害者福祉都市に会津若松市を指定
		11. 14	第四中学校の新校舎が桜町に落成。移転
		12. 20	栄町庁舎落成
1984	59	4. 1	背炙り山空中ケーブル休業。翌 60 年廃止
		4. 22	鶴ヶ城築城六百年まつり開幕
		4. 26	鶴ヶ城内のみやげ物 2 店撤去
		9. 23	会津藩ゆかりの地、青森県むつ市と姉妹都市締結
		10. 1	市の鳥「カッコウ」制定
1985	60	3. 12	湊中学校の新校舎が落成
		4. 1	大戸公民館開所(4. 27 落成記念式典挙行)
		4. 1	旧町名・地名保存事業着手
		8. 6	「核兵器廃絶平和都市宣言」を行う
		9. 9	会津若松市議会議員定数条例が可決され、議員定数が 36 名から 32 名になった。 (昭和 62 年 4 月の一般選挙より適用)
		9. 22	会津若松市合併 30 周年記念式典、市民会館で挙行
1986	61	3. 10	大戸中学校新校舎が落成
		3. 24	運輸省、会津若松・磐梯地区を国際観光モデル地区に指定
		3. 1	「新まちづくり計画」策定
		5. 1	会津町方伝承館落成
		5. 10	日新コミュニティセンター落成
		6. 1	「会津若松市行財政改革大綱」策定
		10. 18	県立博物館開館
		12. 9	第三中学校の新校舎が湯川町に落成。移転
1987	62	1. 5	市役所本庁と各市民センター間で窓口業務のオンラインシステム稼働
		3. 27	県道会津若松裏磐梯線全面開通
		4. 1	一箕公民館開所
		4. 1	会津若松消防署城南分署開設
		5. 12	会津藩主松平家墓所が国の史跡に指定される
		7. 16	第三セクターで会津鉄道（西若松－会津高原間 57.4km）開業
		10. 20	大川ダム完工式挙行
		10. 31	本市と北会津村を結ぶ会津大橋完成
1988	63	1. 11	謹教小学校、米代一丁目に新築移転。入校式挙行
		4. 1	東市民センター開所(併設の東公民館は 4. 30 に落成式挙行)
		7. 9	会津フレッシュリゾート基本構想が総合保養地域整備法の承認を受ける
		7. 31	本郷大橋開通
		10. 14	会津都市計画事業扇町土地区画整理事業の事業計画が県知事認可
		12. 27	都市計画道路亀賀御山線 B 工区仮開通。着工以来 23 年間で 4,790 m が全通
1989	平成元	3. 20	財団法人会津若松市観光公社設立。4. 1 業務開始。
		4. 6	城南小学校開校
		4. 8	城北コミュニティセンター開所
		7. 10	基幹集落センター開所
		8. 30	市制施行 90 周年記念式典、会津体育館で挙行
		9. 2	「がん撲滅都市宣言」を行う
		9. 2	会津総合運動公園のあいづ球場落成
1990	2	1. 1	日新小学校校舎完成
		4. 6	県立養護学校、一箕町鶴賀に開校

西暦	元号	月日	で き ご と
1990	平成 2	4.	松長小学校開校
		9. 16	茶室「麟閣」鶴ヶ城本丸に移築
1991	3	2.	第二中学校校舎完成
		3.	名勝会津松平氏庭園（御薬園）を取得（観光公社に管理を委託）
		5. 1	城西コミュニティセンター開所
		6. 15	中国沙市市と友好都市締結
		12. 12	水道部新庁舎落成
1992	4	4. 1	食肉センター民営化（公の施設廃止）
		10. 1	会津若松市景観条例施行
		10. 29	磐越自動車道会津若松インター開通（郡山－会津坂下間開通）
1993	5	4. 14	会津大学開学
		5. 19	財団法人会津若松文化振興財団設立
		11. 15	あいづ総合体育館開館（会津体育館は鶴ヶ城体育館に名称を変更）
		12.	長期総合計画「まちづくり 21」策定
1994	6	6. 27	會津風雅堂開館（旧市民会館は平成 7 年 3 月取り壊し）
		8. 28	「健康スポーツ都市宣言」を行う
		9. 13	あいづ地方拠点都市地域（会津地方は 19 市町村）が第 2 次指定を受ける
		12. 1	特別養護老人ホーム「会津みどりホーム」開所
		12.	会津総合運動公園あいづドーム落成
1995	7	1.	大戸小学校校舎完成
		6. 27	飯盛山の旧正宗寺三匠堂（さざえ堂）が国の重要文化財に指定される
		8. 19	松長コミュニティセンター開所
		10. 14	第 50 回国民体育大会秋季大会開催（10 月 19 日まで。バレーボール、ソフトテニス、柔道、なぎなた、スポーツ芸術開催）
1996	8	1. 23	あいづ地方拠点都市地域基本計画が県知事の承認を受ける
		3.	物流ネットワークシティ（会津アピオ）分譲開始（事業費 117 億円、37ha 造成）
		4. 27	会津若松市国際交流協会設立
		9. 21	エフエム会津開局
		9. 27	会津若松市観光振興条例施行
1997	9	4. 1	情報公開制度がスタート
		4. 1	会津若松市環境基本条例施行
		4. 1	片柳デイサービスセンター開所
		4.	会津大学に大学院が設置
		4. 23	ノーマライズ交流館パオパオ落成
		7. 31	初の子ども議会開催（市内の小中学校から 29 人の代表者が出席）
		9. 11	会津若松カントリーエレベーター落成
		10. 1	磐越自動車道の西会津－津川間が開通し、いわき－新潟間が全線開通
1998	10	2. 1	「天神ふれあいセンター」開所
		3. 26	身体障害者療護施設「アガッセ」開所
		3. 30	栄町第二庁舎開庁式挙行。同日より業務開始
		7. 9	株式会社会津リエゾンオフィス設立
		7. 31	株式会社まちづくり会津設立
		8. 3	湊町赤井に会津レクリエーション公園がオープン
		12. 21	会津若松市議会議員定数条例の一部を改正する条例が可決され、議員定数が 32 名から 30 名になった。（平成 11 年 4 月の一般選挙より適用）

西暦	元号	月日	できごと
1999	平成 11	3. 19	市制施行 90 周年記念事業として編さんに取り組んだ会津若松市議会史は、記述編Ⅱを刊行し、全巻刊行
		3.	湊町原、共和、双潟、赤井の 4 小学校廃校
		4. 1	市制施行百周年記念除幕式挙行(本庁舎前)
		4. 1	湊小学校開校(校舎は、平成 10 年度中に完成)
		4. 15	南花畑デイサービスセンター落成(4. 19 より業務開始)
			会津若松駅中町線一部供用開始
		10. 15	市制施行百周年記念式典、會津風雅堂で挙行
		10. 30	徳島県鳴門市と親善交流都市締結
2000	12	2. 27	「男女共同参画都市宣言」を行う
		3. 21	大戸新浄水場完成
		4.	財団法人会津若松市中小企業勤労者福祉サービスセンター事業開始
		9. 24	長野県高遠町と親善交流都市締結
		10. 1	会津若松市生活環境の保全等に関する条例施行
		12. 5	史跡若松城跡干飯櫓・南走長屋復元工事竣工
2001	13	1. 21	湊公民館が開所
		2. 9	I S O 14001 認証取得
		3. 31	国民宿舎「あいづ荘」廃業
		7. 1	まちなか周遊バス「ハイカラさん」運行開始
		10. 1	磐越自動車道(会津若松～郡山)4車線開通
		12.	長期総合計画「会津まちづくり物語」策定
2002	14	2.	「あいづっこ」宣言制定
		3. 1	会津若松市民カード(Aoi カード)サービス開始
		4. 1	学校完全週 5 日制開始
		8. 5	住民基本台帳ネットワークシステム第一次稼動
		9. 22	滋賀県日野町、三重県松阪市、会津若松市の三市町において「蒲生氏郷公ゆかりネットワーク共同宣言」
		11. 22	「暴力追放都市宣言」を行う
2003	15	2.	「あいづわかまつこどもプラン」公表
		3.	「健康わかまつ 21 計画」策定
		4. 1	小金井小学校開校
		5. 23	会津若松市 I T 特区認定
		7. 1	「会津ぐるっとカード」発売
		7. 1	まちなか周遊バス「ハイカラさん」双方向運行開始
		8. 9	北会津村との法定合併協議会を設置
		8. 21	「会津若松市行財政再建プログラム」公表
		8. 25	住民基本台帳ネットワークシステム第二次稼動(住基カード交付開始)
2004	16	3. 19	議会において北会津村との廃置分合に関する議案のうち議会の議員及び農業委員会の委員の経過措置に関する議案以外を可決
		3. 26	J R 会津若松駅が 43 年ぶりにリニューアルオープン
		3. 27	若松城天守閣が 40 年ぶりにリニューアルオープン
		4. 1	会津若松市男女共同参画推進条例施行
		4. 1	河東町・湯川村との法定合併協議会を設置
		4. 23	議会において北会津村との合併における廃置分合に伴う経過措置に関する議案可決
		10. 25	湯川村が法定合併協議会からの離脱を申し入れ
		11. 1	北会津郡北会津村を編入合併

西暦	元号	月日	で き ご と
2004 2005	平成 16 17	11. 4 3. 7 4. 17 7. 1	伝統工芸品全国大会開催（11月7日まで） 議会において河東町との廃置分合に関する議案を可決 神奈川県横須賀市と友好都市締結 ＪＲ 6 社による「あいづデスティネーションキャンペーン」が開催（9月30日まで）
2006	18	11. 1 2. 10 7. 1	河沼郡河東町を編入合併 文化戦略会議エンジン 01 開催 昨年に続き、JR との提携による「この夏も会津へ 2006 キャンペーン極上の会津」が開催（9月30日まで）
2007	19	9. 1 10. 10 12. 1 2. 8 4. 1 4. 1 5. 2	会津若松地方広域市町村圏整備組合と会津地区広域事業組合が統合 会津ナンバー誕生 第 6 次会津若松市長期総合計画策定 ゆきみらい 2007in 会津開催 河東学園小学校開校 県内初の併設型中高一貫教育校 県立会津学鳳中学校・高等学校が開校 コミュニティプール開館
2008	20	8～10 3. 31 4. 1 4. 1 6. 23 7. 4	まちなか歩キメです！～歩いて暮らせる会津若松地区社会実験事業～ 株式会社社会津リエゾンオフィス解散 戊辰 140 周年記念事業開幕 鶴城コミュニティセンター開所 会津若松市議会基本条例・会津若松市議会議員政治倫理条例施行 北海道稚内市、利尻町、利尻富士町、会津若松市において「会津藩北方警備ゆかりの地交流都市共同宣言」
2009	21	10. 1 10. 1 4. 1 4. 1 4. 1 4. 27 10. 1 11. 1	河東地域コミュニティバス「みなづる号」運行開始 オープンオフィスドキュメント形式運用開始 城南コミュニティセンター開所 湊しらとり保育園開園 大塚山墓園納骨堂供用開始 会津若松学校給食センター供用開始による市立幼・小・中学校完全給食実施 会津能楽堂開館 市制施行百十周年記念式典開催
2010	22	3. 1 4. 1 12. 25	河東工業団地第一期分譲開始 謹教コミュニティセンター・夜間救病センター開所 若松測候所、観測記録上最高値 115.9℃ の記録的豪雪
2011	23	1. 1 2. 7 3. 11 3. 13 3. 27 4. 5 4. 17 8. 7	北会津中学校新校舎落成 住民票の写し、印鑑登録証明書のコンビニエンスストア発行サービス開始 午後 2 時 46 分三陸沖を震源とするマグニチュード 9.0 の地震（東北地方太平洋沖地震）本市震度 5 強のため地割れ、公共施設・建物の損壊等甚大な被害。市災害対策本部設置。 福島第 1 原子力発電所の事故によるスクリーニング（放射能測定）の開始 被災者受け入れのための避難所順次開設（あいづ総合体育館、河東総合体育館、ふれあい体育館、北会津中学校体育館） 往時の天守閣再現事業「赤瓦」復元工事竣工オープン 双葉郡大熊町役場機能が追手町第 2 庁舎（旧県立会津学鳳高校）へ移転 大熊町住民の受け入れ開始（東山温泉） 大熊町小中学校機能移転（旧河東第三小学校・追手町第 2 庁舎） 生涯学習総合センター（會津稽古堂）開館 市長・市議会議員選挙投票日（震災のために統一地方選挙時期から延期）

西暦	元号	月日	で き ご と
2012	平成 24	3. 20	京都府京都市と相互交流宣言
		7. 22	新潟県新潟市と観光交流宣言
		8. 1	原動機付自転車オリジナルナンバープレート交付開始
2013	25	1. 6	NHK大河ドラマ「八重の桜」放送開始
		1. 12	ハンサムウーマン八重と会津博 大河ドラマ館開館（～2014. 1. 14 まで）
		4. 1	会津総合運動公園あいづ陸上競技場供用開始
		10. 6	第 25 回鶴ヶ城ハーフマラソン大会開催（鶴ヶ城健康マラソン大会名称変更、ハーフコースの新設）
2014	26	3. 31	市民課窓口にてタブレット端末を活用した「しんせつ（親切・新設）窓口開始
		4. 1	あいづ食の陣（春・アスパラ 夏・トマト 秋・米 冬・会津地鶏）開幕
		7. 25	まなべこ（会津若松市歴史資料センター）開館
		9.	新市建設計画の改訂
2015	27	1. 22	地域再生計画「アナリティクス産業の集積による地域活力再生計画」が内閣総理大臣の第一次認定を受ける
		4. 1	J Rグループ6社等との協働による「ふくしまデスティネーションキャンペーン」を開催（6月30日まで）
		4. 1	鶴ヶ城天守閣内の郷土博物館を全面的にリニューアルするとともに、天守閣の夜間照明をLED照明にリニューアル
		4.	「会津若松市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略」を策定
		9. 19	鶴ヶ城天守閣再建 50 周年記念式典を開催
		10. 14	北海道余市町と親善交流都市締結
2016	28	2.	鶴城小学校新校舎落成
		4. 1	ふくしまデスティネーションキャンペーンのアフターキャンペーンを開催（6月30日まで）
		4. 1	あいづ球場のスコアボードをLED式電光掲示板に改修し供用開始
		4. 25	「会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往時の会津の文化～」が日本遺産に認定される
		6. 29	会津若松市自治基本条例を施行
2017	29	2.	会津若松市第7次総合計画策定
		4. 1	会津若松市景観条例の全面改正施行
		6.	水道料金改定
		7. 22	全国高等学校総合体育大会（インターハイ）開催（8月10日まで。ソフトテニス、テニス、ボクシング）
2018	30	3.	新滝沢浄水場「こしえる」（膜ろ過方式）完成
		3. 31	材木町児童館廃止
		4. 1	河東学園中学校開校
		4.	戊辰 150 周年記念事業開幕
		4.	神明通り新アーケード完成
		5. 14	広報議会モニター制度開始
		6. 19	あいづ相撲場土俵開き
		9. 14	会津若松市議会議員定数条例の一部を改正する条例が可決され、議員定数が 30 名から 28 名になった。（令和元年8月の一般選挙より適用）
		12. 27	市民憲章制定 50 周年記念看板除幕式開催
2019	31	3. 16	「会津日新館天文台跡」が日本天文遺産第1号に認定
		4. 1	市制施行 120 周年記念式挙行
		4. 22	ICTオフィス「スマートシティA i C T」開所
2019		4.	県立病院跡地利活用基本構想を策定

西暦	元号	月日	で き ご と
2019	平成 31 令和元	4.	庁舎整備基本計画を策定
		6.	会津若松市議会災害時業務継続計画（議会 BCP）を策定
		4.	会津総合運動公園の多目的広場サッカー・ラグビー場を人工芝に改修し供用開始
2020	2	9.	小・中学校の普通教室等に空調設備（エアコン）設置完了
		11.	「庁舎整備基本計画の精査と整備に向けた方向性の整理について」を公表
		3. 23	「第 2 期会津若松市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略」を策定
		4. 16	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、緊急事態宣言の対象地域を全都道府県に拡大（5 月 25 日までに全て解除）
2021	3	4. 21	会津若松市新型コロナウイルス感染症対策総合本部設置
		12. 18	新市建設計画の改訂
		3.	行仁小学校新校舎落成
		3. 26	東京 2020 オリンピック聖火リレー実施
		3. 31	河東学園小学校、河東学園中学校廃止
2022	4	4. 1	義務教育学校河東学園開校
		12. 27	「ゼロカーボンシティ会津若松宣言」を行う
		5.	新庁舎整備のため、各部署の移転・配置変更を行う
		6.	スマートシティ会津若松の取組が国の「デジタル田園都市国家構想推進交付金（T Y P E 3）」の採択を受ける
		8.	定例会を年 1 回とする通年議会を導入
		10.	会津若松市立地適正化計画を策定
		10.	「会津若松市ベビーファースト宣言」を行う
2023	5	4. 28	鶴ヶ城天守閣をリニューアルオープン
		4.	大戸小・中学校 小規模特認校制度導入
		5. 8	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「2 類相当」から「5 類」へ移行される。
		6. 9	会津若松市議会災害時業務継続計画（議会 B C P）を改訂（重大な感染症まん延時への対応）
		6. 9	県立病院跡地利活用基本計画を策定
2024	6	7. 19	会津総合射撃場供用開始
		3.	「第 3 期会津若松市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定
		4.	義務教育学校湊学園開校
		6. 11	「ごみ緊急事態」を宣言
		8.	議会モニター設置
2025	7	2.	家庭ごみ処理有料化実施方針を策定
		3.	会津若松市都市計画マスタープランを改定
		4.	会津若松市重層的支援体制整備事業実施計画を策定
		4. 29	新庁舎完成記念式典実施
		5. 7	市役所新庁舎で業務開始
		6.	会津若松市新斎場整備基本計画を策定
		7. 15	猪苗代湖がラムサール条約湿地に登録
		9. 30	会津若松市健康づくり推進条例を制定
		12.	会津若松駅前都市基盤整備基本計画を策定
2026	8	4. 1	家庭ごみ処理有料化を実施（ごみ処理手数料制度を導入）
		7. 1	「オーガニックビレッジ宣言」を行う